

タブレット／スマートフォン対応の 呼出しチャイム受信表示機の試作開発

試作開発＋設備投資

ものづくり技術：情報処理

株式会社ランテックソフトウェア（北九州市）

本事業への経緯

不動産鑑定士向け業務ソフトで業界 トップシェア

ソフトウェアの開発やインターネット構築支援、サイト運営などを手掛けている。主力事業である不動産鑑定士向け業務ソフトは、地価公示・地価調査の鑑定評価書を作成する「鑑定評価システム」や全国標準書式を基本に最新書式のマンション収益・DCF・農地・山林まで組み込まれている「競売評価システム」、戸建住宅・共同住宅の第一期開発における評価額を算定する「開発法システム」など多数を開発。不動産鑑定士から絶大な信頼を得て、業界ナンバーワンのシェアを誇っている。

プログラム開発の技術を活かしてホームページの制作から運用管理、独自ドメインの取得まで対応し、地元企業や官公庁などに多くの導入実績を持つ。また、土木業界向けや金融機関向け、学校向けなど業界に特化したソフトウェアを開発している。一方、韓国の子会社と提携し、同社の技術を組み込んだインターネット対応の自動ストリーミング・ロボット「Aero Vision（エアロ・ビジョン）」を開発するなど、グローバルな展開も図っている。

また、庄司裕一社長は、KLIC（北九州国際 IT ビジネス推進会）の会長を務め、IT ビジネスの普及やアジア地域との経済交流などにも積極的に取り組んでいる。

事業の内容

呼び出しボタンが従業員への負担を 増大させている？！

ソフトウェア開発のきっかけは様々なケースが挙げられるだろうが、問題解決や利便性の向上は、なかでも重要なテーマといえるだろう。

同社が新規事業として開発に着手したのは、「呼出しチャイム」と言われるものだ。呼び出しチャイムは、ファミリーレストランや居酒屋など座席数が多い店舗でよく見かける。

ファミリーレストランや居酒屋では、テーブルに置

いてある呼び出しボタンを押すと厨房などに設置した表示器に押されたチャイムのテーブル番号などが表示される。表示器を設置する場所は、店の規模によっても異なるが、厨房とデシヤップ（飲み物を作成する場所）の場合が多い。

店の従業員が各テーブルを見て廻る手間が省けることから、少ない従業員で効率よく店を運営することができる。しかし、従業員は呼び出しがかかる度に、表示器が設置してある場所まで行ってテーブル番号を確認し、それからテーブルに向かうという動作を行う。それを営業時間内に何度も繰り返す。広い店であれば、かなりの時間をロスすることになるし、従業員の肉体的精神的負担も大きいと思われる。

店が忙しくなると、呼び出しが表示されても対応できる人がいなかったり、従業員同士がお見合いをしたりすると、顧客満足度を落としかねないという危険性も含んでいる。

居酒屋など飲食業界は近年、従業員不足で頭を抱えている。そのために、アルバイトスタッフの時給を上げるなどの対策で乗り切ろうとしているが、その分、経営を圧迫してしまう。人材確保と定着率の向上のためにも、労働環境の改善がこれからの飲食業界に求められると思われる。

同社が開発に着手した呼び出しチャイムは、こうした飲食店が抱える問題を解決することを目的としている。

事業の成果

スマートフォンで呼び出したテーブル を確認できる業界初のシステム

同社の呼び出しチャイムは、手持ちのスマートフォンやタブレットにテーブル番号が表示されるという点が最大の特長だと言える。呼び出しチャイムが押されたら、テーブル番号からの信号を受信表示器と受信機（中継器）が受信する。ここまでは、従来型を変えないが、このシステムでは受信機は、受けた信号をメイン表示器に送る。そしてメイン表示器は、無線LANによって従業員のスマートフォンやタブレット、サブ表示器にも信号を送ることができる。

従業員は手持ちのスマートフォンやタブレットに呼び出し情報が入るため、いちいち表示器まで見に行く必要がなくなる。またテーブルに向かう際に、当人が画面をタップする事で誰が向かったかという情報を皆で共有することもできる。これによって、従業員の移動距離はかなり短くなる。ムダな時間も削減でき生産性も上がる。時間に余裕ができれば、他のサービスや業務に時間を割くことができるようになり、結果として顧客満足度も上がるものと思われる。

今回の試作品開発にあたり、新しく表示器（メイン、サブ）と受信機（中継器）とタブレット、スマートフォン用の表示アプリを開発した。アプリの開発は自社内で出来るが、ハードの開発については、チャイム製造・販売メーカーに協力を求めた。当初は競合になるとの懸念もあり協力を得られなかった。しかし、製品の優位性を理解してもらい開発に至った。

今後の課題・展望

工場や医療・介護現場での需要も 期待できる

スマートフォンやタブレットでお客様の呼び出しを確認できるシステムは他に例がない。業界初という優位性に加え、アプリを無料で配布することにしており、その分、導入コストは従来のシステムに比べ 40%程も安く提供できる。

今回の開発では、飲食店を主なターゲットと位置付けていたが、工場や介護の現場での需要も掘り起こしていきたいと考えている。例えば、工場の製造ラインにおける呼び出し（部品供給呼出、故障アラーム呼出、集荷・フォークリフト呼出など）だ。工場で作業中に呼び出しがあっても、その都度、表示機を見に行く必要がなくなる。さらに工場のラインを担当している場合、自分の前のラインが止まったなどの情報はスマホ



今回のシステムは、テーブル番号の管理に工夫を加えれば、電話による予約時や来店での受付時に空きテーブルを見極めテーブルに案内する管理システムへの連動が可能になる。チャイムとテーブル番号を紐づけることで、パソコンを使わなくてもタブレット上に配置図を描画し、テーブルを色分けするなどの機能を付加すれば一目で管理が可能となる。まだまだシステムの可能性は広がるに違いない。



庄司 裕一 社長

などで知ることができる。老人介護や病院でも同じように表示機まで戻らなくてもスタッフは迅速な対応が可能となる。

「呼び出しチャイム」の販売価格は1セット（受信機1台、送信機20台、タブレット2台）で約45万円。今後は、実施試験などを行ない、品質をより高め、マーケティング、量産、販売を進め、年間1000～2000セットの需要を開拓を目指す。

企業概要

会社名	株式会社ランテックソフトウェア	設立	平成5年4月1日
住所	北九州市小倉南区蛸田若園3-13-47	事業内容	ソフトウェア開発・ハードウェア販売、ホームページ作成・ホスティングサービス・ASPサービス
代表者	庄司 裕一	従業員数	7人
連絡先	TEL093-932-2350、FAX093-932-2352	ホームページ	http://www.lantech-software.co.jp/
資本金	4000万円		